

Rotary
Club of KOBE EAST



The Rotary club of Kobe East BULLETIN



神戸東ロータリークラブ会報

No.392 2020-2021 No.1

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／鮑 悦初 副会長／大澤 勇 幹 事／樋口 一哉 広報委員長／吉田 博 副委員長／崎山 豊

例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ「ロータリークラブライフ “面白く! 楽しく! カッコ良く!”」



RI President

Holger Knaack

HOLGER KNAACK
2020-21年度国際ロータリー会長





2020-21 年度神戸東ロータリークラブ

第 67 代会長 鮎 悦初
理事

2020－2021活動方針

『ロータリークラブライフ

“面白く！楽しく！カッコ良く！”

年度のスタートにあたり会長挨拶をさせていただきます。

先ずもって、2019－2020 年度度須藤会長、井元副会長、吉田幹事はじめキャビネット、各委員長の皆さんがリーダーシップを発揮され、現代の人類が予期し得なかったコロナウイルスによる世界的パンデミックの発生による国内での緊急事態宣言発令、社会の混乱の中、クラブ活動再会の為に尽力されたことに敬意と感謝を表します。

私は平成 16 年 3 月 2 日に角田嘉宏、植村孝一会員の推薦で伝統と格式ある神戸東ロータリークラブに入会させていただきました。道上年度の幹事を仰せつかり、幹事の役割すら理解せず、道上会長の指導の下で何とか役割を終える事が出来ました。

1 年半ほど前に、ぽーっと神戸東ロータリークラブライフをおくっていた私に「会長ノミニー」のお話を頂きました。毛頭クラブの会長職など考えても、求めてもいませんでしたが、お名指しを頂いたこと

に我を忘れ、幹事時代の反省も忘れ、無謀にもお引き受けさせて頂きました。

後悔先に立たず、とうとうこの日を迎えてしまいました。

2020-2021 年度ホルガー・クナーク RI 会長は「ロータリーは機会の扉を開く」を会長テーマとして示されています。

『ロータリーの友』の 3 月号にホルガー・クナーク RI 会長エレクトのインタビュー記事が紹介されていました。インタビュー最後は以下のコメントで締めくくられています。

“ロータリーはもっとクールになる必要がありますか。

若い世代にとって魅力ある存在になることは必要です。私は今あるロータリークラブを誇りに思っています。しかし、ローターアクターや若い職業人にとって魅力が無いと言うのであれば、彼らを引きつけるクラブモデルをつくることを奨励するべきです。それが、今後数年間で私たちが行っていくことなのです”

2680 地区 高瀬 英夫ガバナーは
「ロータリーの魅力を語り、伝えよう」

～次の 100 年に向けて、ロータリーの心と原点を求めて～

「ガバナー運営・活動方針」として掲げています。

恥ずかしながら会長見習い（エレクト）として改めて神戸東ロータリークラブ定款・細則を読み直しました。

定款第 3 条「クラブの目的」には、

“本クラブの目的は

- (a) 「ロータリーの目的」の達成を目指すこと
- (b) 五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施すること

- (c) 会員増強を通じてロータリーの発展に寄与すること
- (d) ロータリー財団を支援すること
- (e) クラブレベルを超えたリーダーを育成すること”

とあります。

また、第5条の「目的」には：

“ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

第1：知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2：職業上に高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

第3：ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。

第4：奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。”

と書かれています。

この「目的」は毎年発行されるクラブロースターのはじめにも明記されています。

我々の定款・細則も「ロータリークラブ標準定款・細則」に沿ったもので、表現は極めて抽象的で、何を？如何するか？など具体的なことは書かれていません。夫々のクラブに任されている。何を？如何するか？夫々のクラブの視点、価値観、優先順位が表れると思います。

私はどんなクラブや団体も、会員がその組織の目的に意義を感じ、会員としての誇りを持って面白く！楽しく！活動している、その姿がカッコ良くあれば、自ずと周りの人達が集まり！そのクラブや団

体は発展すると考えています！

論語の訓えの中に『近者説 遠者来』近き者説（よろこ）べば、遠き者来（きた）る。』というものがあります。

中国が幾つかの国に分かれていた春秋時代に、楚の国の葉公（しょうこう）が孔子に政治の要諦を質問しました。

孔子曰く、「近くにいる民が悦び、幸せである。すると、遠くにいる民もその話を聞いて集まってくる。」

民が集まれば国は栄える！この訓えは現代でも全ての企業や団体の栄枯盛衰に繋がる、核心をついた哲理、訓えだと思います。

また、論語の訓えの中に『知之者、不如好之者。好之者、不如樂之者』

之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。

とあります。

我々神戸東ロータリークラブの奉仕活動や多くの事業を一生懸命に取り組むことは大切なことだと思いますが、奉仕活動や事業を我々一人ひとりが面白く、楽しんでやれば、周りの人を巻き込み更に大きな奉仕活動、事業にできると私は思います。

まずは我々が、神戸東ロータリークラブの奉仕活動や親睦活動等々の全ての事業を面白くしましょ！楽しみましょ！面白く、楽しんでいる姿、我々の立ち居振る舞いはきっとカッコ良いと思います！

クラブの奉仕活動や親睦活動など全ての事業が我々神戸東ロータリーの「目的」として、我々のクラブが存在する意義、我々の価値観として収斂されて行く、我々神戸東ロータリークラブのブランド、魅力として表現されるでしょう。「魅力」があれば自ずと我々のクラブに入会したいと言う人が沢山現れると思います！

我々のクラブもやがて70年、そして80年、90年、100年の歴史を超え、更に魅力的なクラブとなるでしょう！

高杉晋作の辞世の句に「面白きこともなき世を面白く すみなすものは心なりけり」とあります。「面白きこともなきロータリーライフを面白く すみなすものは心なりけり」

神戸東ロータリークラブのクラブライフを、面白く！楽しく！カッコ良く！で行きましょう！

過日、予定者クラブ協議会で各委員長、地区委員、出席者皆さんに私の活動方針

『ロータリークラブライフ“面白く！楽しく！カッコ良く！”』を示し、私の稚拙な思いを話させていただきました。その会で森本会長ノミニーより、“鮑さん、カッコ悪い方が面白いんちゃう！”って貴重な指摘、アドバイスを戴きましたが、私としてはこの一年間あくまで“カッコ良く！”を目指して参りたいと考えています。

皆様には「カッコ良い姿」では無く「カッコ悪い姿」をさらすかも知れませんが、いや「カッコ悪い姿」をさらすと思いますが、どうか皆さんカッコ悪くても面白がって下さい！楽しがって下さい！

「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損々」で行きましょう！

これからの一年間お付き合い下さい。どうぞ宜しくお願い致します。



皆様のお力添えをお願い申し上げます



副会長
理事 大澤 勇
クラブ管理運営委員長

副会長を勤めることになりました大澤です。と同時にクラブ管理運営委員長を兼任する事になりますのでよろしくをお願いします。前年度・井元副会長は就任時に「私の職務は、会長の尻ふく会長（しりふくかいちょう）」という名言を残されました。私はコロナ問題で非常時の状態になったロータリー活動を元の状態に回復する意味で、回復会長（かいふくかいちょう）として頑張ろうと思います。但し、コロナ問題が終息した訳でもないので簡単には言えませんが、私自身はコロナ以前の状態に戻るという事は無いと思っています。

先月の例会で5人の会員の皆さんにそれぞれの業界の話をして頂きました。言えることは、我々の世界で起きている非日常な状況はやがては日常化し、そのことに適応しなければ存続出来ないという事です。当分難しい状況が続くと思われます。その意味で今後の会の運営に関しては全力で取り組みますが、会員の皆様をお願いする事が増えるのではないかと心配しております。どうか寛容の気持ちとご支援をお願いしたいと思います。

ロータリー活動に関する行動・規範には難しい概念表現が多いと思います。それらの意味を読み解く

のは、ロータリアンとしてかなり努力し勉強しなければなりません。私は経験的にはまだ浅く意味のある崇高な話は出来ませんので、出来るだけ具体的な活動指針を述べさせていただきます。

副会長としては、会長・幹事を支えクラブ運営が進むようにサポートする立場にあります。

- ①会長・幹事と常に連絡を取り、三役の結束に配慮する。
- ②会長欠席時の会長挨拶の代弁・代読と親睦・家族会等諸会の締めめの挨拶をする。
- ③各委員会の会合には出来るだけ参加し、委員会情報を吸い上げる。
- ④事務局・会計との連絡を密にし、常に三役で最新のクラブ情報を共有する。

クラブ管理運営委員長としては管轄する6つの委員会（出席・親睦・家族・プログラム・週報・唱歌）が出来るだけ円滑に機能する様、委員会間の調整をしようと思っています。

各委員会の委員長と各方針をご紹介します。

<出席委員会> 木下健委員長

ロータリー活動の基本である「例会出席」、更に各種事業への参加・出席について会員全員の意識を高めるように努めます。

会長方針「ロータリーライフ“面白く！楽しく！カッコ良く！”」に沿って魅力あるクラブライフを訴え出席率向上並びに退会防止に努め、S.A.A.並びに他の奉仕委員会とも協力し合って出席率向上に取り組みます。

<親睦委員会> 渡邊英一郎委員長

会員相互の親睦を深める事を目的に、明るく楽しい親睦活動を委員会一丸で設営します。

<家族委員会> 鈴木祐一委員長

会員相互の親睦を図りながら会員・家族のロータリーへの理解を深め、神戸東ロータリークラブのツナガリを強くする企画を実践する事で、会長方針で



ある「ロータリーライフ “面白く！楽しく！カッコ良く！”」を実現したい。

＜プログラム委員会＞ 藤井光造委員長

神戸東らしい面白い！楽しい！カッコ良い！会長方針に沿ったプログラムを企画する。

「RI・地区の月間」に加えて各委員会と連携し、適時各委員会事業や活動を例会プログラムに反映して全会員に各委員会の事業の理解を伝え応援に繋げる。

＜週報委員会＞ 和田真一委員長

会長方針のもと

①クラブ活動の正確な記録と情報伝達を行います。

②週報作成の内製化に取り組みます。

③電子配信を推進し、週報配布を合理化します。

＜唱歌委員会＞ 山崎仁嗣委員長

国歌、ロータリーソング、唱歌をソングリーダーとして全員で歌唱することを通じて、例会の規律と会員の親睦友好の向上に努める。

各委員会とも、会長方針に沿って素晴らしい方針を掲げて頂いております。各委員会に対して、私としても支援していけるように励んで参ります。クラブ運営を円滑に進める為に、鮑会長・樋口幹事と共にこの1年頑張っていきます。皆様のご協力を何卒よろしくお願い致します。





幹事
理事 樋口 一哉

思いがけず、声掛け頂き1年半、まさかのコロナ明けのタイミングという大変な時期に幹事という大役を仰せつかり毎日右往左往する日々を送っています。

今まで全く知らない事や、気が付かなかったことの連続です。ぼーと生きてんじゃないよとお叱りをお受けすることが多々あると存じますが、悪気はございませんので、ご容赦お願いします。私は、父が須磨ロータリーのメンバーでしたので、その紹介で、当時大学一年で全く学校には行かず、アルバイトと雀荘通いの毎日のダメダメ学生を何かまともな事と神戸東ローターアクトクラブに紹介頂きミニロタキチになって行きました。

当時国際会館の例会にもよく参加させて頂きました。いつか、この様な立派なロータリークラブのメンバーになればなと思っていました。縁あって、平成19年に憧れの神戸東ロータリークラブに入会させて頂きました。入ってすぐから、色々な活動に参加させて頂き、一昨年、鮑会長から声掛け頂き、副幹事となり、鮑会長、大澤副会長と共に準備をして参りました。コロナで、地区大会が中止になり、続いて例会、理事会も中止になり身動き出来ない状

況が、6月まで続いていました。須藤前会長のリーダーシップで、例会再開となり、新年度からは、正常化に向けた準備です。前年度から多額の繰越金を頂き、また、この様な危機的状況であるとの皆様の認識から、基本金の一部取り崩し、鮑年度前半の会費徴収を免除する事になりました。コロナ対策を考えながら、ガバナー補佐、ガバナーの来訪に備えたり、予算案の策定等色々な事をやって参ります。7月からは、例会を正常化させ、まだまだ先行き、コロナの第2波、第3波も警戒しながらのロータリー活動になります。私は、走り出すと、猪突猛進のイノシシ男です、気の利かないのも自他共に認めるものです。皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。





2019-20 年度神戸東ロータリークラブ

第 66 代会長
理事 須藤 雄二

昨年 7 月 2 日の第一例会からあっという間に一年が過ぎました。

但し、後半は新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により休会となり、予定していた活動がほぼ全部中止となりました。

休会中には、卓話予定者へのお断り等に苦労されたプログラム委員会、家族旅行や親睦会のキャンセルに追われた親睦家族委員会、休会中の週報の発行に努力していただいた週報委員会、及び、その他の全委員会、また、会員の安否などクラブ会員の一体感を保つ努力をしていただいた事務局、等、多くの方々の善意を受けました。この場を借りてお礼を申し上げます。

また、理事役員の方々、特に井元副会長、吉田幹事にはクラブ運営についての確にご協力いただき感謝いたします。

就任挨拶で、私が感じてきたこのクラブの強みについてお話をしました。特に強みについては、

1. 良い伝統がある事
2. ロータリーの基本的なルールが守られている事
3. バランス感覚を持った良い会員の集まりである事

4. 年齢層の幅がありながら若い会員増強が出来ている事

等を挙げました。これらについては会長就任後も全く同様と確信しましたし、是非これを続けていただきたいと思っています。

一方で、会長方針の一つに掲げた、クラブ理念の確立は未だ、これといったものが出来ていないのが現状です。定款にあるロータリーの目的は、標準定款として定められた世界共通のものです。会員増強に努めながらクラブの求心力を高めていくには、個々のクラブのあり方についての理念が必要かと感じている所です。

政治的な問題をここで論じるつもりはありませんが、今マスコミでダーウインの言葉とされる「唯一生き残れる者は変化できる者である」という言葉が憲法改正に絡めて問題となっています。

この言葉は、ダーウイン以外の人が進化論を間違って解釈して作った言葉との批判がされていますが、その批判は進化論をヒトラーが民族浄化に利用した優生学と混同しているのではないかと思います。人間の遺伝的な優劣を論じることが正しいはずがありません。

環境変化に適応できる者だけが生き残る適者生存が進化論の考え方であったはずですが、適者生存を効率よく実現する為に、高等生物は雌雄により子孫を残す有性生殖になったと考えられています。繁殖の効率から言えば単に細胞分裂する無性生殖のほうが高いはずですが、それでは突然変異はあっても多様性は担保されにくくなります。

有性生殖をすることにより、遺伝子の多様性が担保され、それを有効に使って環境変化や疫病を乗り越える仕組みがあるのです。つまり変化に対応する為の引き出しを、変化が起こる前から多く持っていることが、環境変化に強い仕組みの根源と言えます。

この仕組みは、環境や病気等の変化の激しい地球

の環境で生き残りが有利になるように長い時間をかけて出来たものと考えられます。

これは組織にも適用されるはずです。組織を劣化させるには何もしない事であり、維持するためには、変化の引き出しを変化が起こる前から多く持つように走り続けなければならないのです。

我々のような中小零細企業では、無性生殖をする単細胞的に同じことを繰り返す傾向があります。そこに変化の引き出しのアイデアを与えてくれるのは、仲間の成功体験や失敗体験です。多様な職業を持った経営者が集まるロータリークラブであるからこそ、例会に参加し事業の対応についてのアイデアを交換することが、激しい環境変化に耐える引き出しを多く持った企業を作る助けになると考えます。

今までに何度か行われた会員アンケートでも、ロータリークラブに入会した理由の一番は、自身の人生や事業に役に立つと思ったからという回答でした。

新型コロナウイルスの蔓延という激しい環境変化をどう乗り切っていくか、ロータリーの存在意義、つまり各クラブが何のために存在するのかが問われようとしています。

その為には当クラブが何のためにあるのかという理念を持つことが重要と考えます。

その理念は今お話ししたように、会員が自らの人間形成や事業の成功の為の引き出しを多く持つ為の場を提供することにあると思います。これが親睦という言葉の本質と考えます。そして、人間形成や事業に成功を収めた会員が一丸となってその事業を通じて地域社会に奉仕貢献することがクラブの興隆に繋がって行くのではないのでしょうか。

次年度、鮑会長もクラブには理念が必要ではないかという思いを持っておられます。引き続き当クラブの存在理念を考えていただきたいと思います。

会長の任期が終わった後の最後の仕事は、会長ノミニーの選定です。クラブを引っ張っていく顔としての人材を選んでいく所存です。会長ノミニーを選ぶ折にはよろしくご協力のほどお願いいたします。

また、当クラブから久野ガバナーを輩出してから既に6年以上経過し、それ以降入会された会員も多くおられるようになってきました。次年度委員長を仰せつかった長期計画委員会の課題にも当クラブからガバナーを輩出するかどうかを取り上げられています。

クラブにとってガバナー輩出の意味とは何でしょうか。赤木ガバナー、久野ガバナーの時を振り返ると、一番の良い所はクラブ内の一体感が増すという事と思います。ガバナーというみこしを担いでクラブがお祭りをするという事です。また、神戸東クラブらしい地区運営や地区大会をすることにより、神戸東クラブが如何に良いクラブかを他クラブへアピールできます。

ガバナー輩出には、みこしを担いでやろうという皆様のご協力が必要です。また、ガバナーを輩出するためには、地区との友好な関係を構築しておくことも重要です。

新型コロナウイルスの蔓延が完全に収まらないなかで、このような議論をすることが正しいのかは私自身まだ確信が持てませんが、来年度一年をかけてこの課題を検討していく所存です。

今年一年お世話になりありがとうございました。



在籍 50 年表彰 (6 月 30 日) 木下 健・小倉宗夫会員



副会長
理事
クラブ管理運営委員長
井元 憲生

私は2019年7月～2020年6月須藤年度において、会長の指名により当会副会長に選任され、このたび副会長の任期1年が経過しまして、退任させていただくことになりました。この1年間、会長はじめ役員、会員の皆様にはご指導、ご協力、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

今年度の須藤方針は“クラブライフを通じて世代を超えた繋がりを”をテーマとしており、①クラブ理念を確立すること ②例会運営について、厳かさ緊張感のある雰囲気の中で世代を超えた会員相互の融和をはかること ③会員（若い世代）増強及び影響力のある人材の入会を図ること ④限られたリソースを効率よく公平に使う、今の時代に合った事務局の運営 ⑤クラブ運営の為に健全な財務体質の強化 という、5つのビジョンを掲げておりました。その中で私も副会長及びクラブ管理運営委員長として、会長をサポートさせていただきながら、より良いクラブ運営に携わらせていただきました。

この1年間は、上半期においては大きな問題もな

く順調に進み、上記5つのクラブビジョン（テーマ）を基本に各委員会の活動の円滑実施をサポートしてまいりました。下半期も同様に取り組む予定でしたが、新型コロナウイルスの影響によって、色々と活動を計画してきたものがほぼすべてが取りやめとなってしまいました。例会自体も約3ヶ月もの間、休会となり、これまでに経験のない事態となりました。大変な状況ではありますが、しかし、会長、幹事との3役の副会長として会員の皆様の健康と安全を最優先に考え、臨機応変に即決し実行していくという、普通の年ではなかなか無い危機管理を経験させていただきました。私自身、今回の役割を担うことで大変勉強をさせていただいたと思っております。また、会全体につきましても、想定していたものとは違う形にはなりますが、クラブの理念を改めて考えさせられる機会となり、会員同士がお互いを思いやることで相互のつながりも強化されることにつながったのではないかと感じております。

改めて、この1年間の副会長職へのご協力とご支援に感謝申し上げますとともに、次年度以降も当クラブのメンバーとして、より一層努力してまいりますので、皆様にも今までと変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。





幹事 吉田 茂
理事

2019～2020 年度幹事をさせていただきました、
吉田 茂でございます。

この度は1年間の任期を終え退任させていただく
ことになりました。2019年7月2日よりハラハラ
ドキドキの幹事1日目が始まりました。楽しいロー
タリーライフを皆様に提供する初めての司会が緊張
で楽しくならない雰囲気司会になってしまいました。
司会2回目は楽しくしようとすると、終わった
後で「カラオケ同好会のMCみたいだったとか」「な
んかの店の呼び込みみたいだったとか」なかなか難
しく無理せず普通の司会進行を心掛ける様になりま
した。理事・役員会におきましてもスムーズな議事
進行を心掛けていましたが、不手際があったきがし
ます。不慣れな幹事を支えていただいた須藤会長・
井元副会長・理事・役員会の皆様各委員長の皆様、
各委員の皆様、また事務局員の皆様、この1年間あ
りがとうございました。本当に感謝しております。

前半のロータリークラブの活動は須藤会長の「ク
ラブライフを通じて世代を超えた繋がりを」を実践
すべく活動をしてまいりました。楽しく委員会活動
が出来たように思えます。年末になり下半期の活動
を打ち合わせをし新年を迎え楽しいロータリーライ
フを開始した矢先2月にコロナウイルスの報道があ

り、あっという間に世界中に広まっていきました。
緊急理事役員会や緊急危機管理委員会を開き対応策
を考えましたが、3月から例会を休会する事になり
ました。

楽しい予定が全てキャンセルとなり、計画してい
た事業も中止となりました。

苦勞をして計画して頂き寸前までできるかもしれ
ないと準備を続けて頂いた委員会の皆様には申し訳
なく思っておりました。コロナの自粛期間中も週報
委員会は週報発刊のために尽力して頂きありがとう
ございました。

コロナの自粛期間中にどうしたら楽しいロータ
リーライフを再開できるか？

皆様の安否確認をしたり、いろんな意見を聞いた
りしながら出来る事はなにかを模索してまいりまし
た。まず理事・役員会を集まって出来るかを計画し、
次に皆様全員とまたロータリーライフを楽しめる事
を次年度に引き継ぐ為になすことを提案し進めてま
いりました。下半期は残念な結果でしたが、例会が
再開し皆様と全員と顔合わせができた事を大変うれ
しく思います。

会長・副会長・理事・役員・会員の皆様のお力添
えのおかげで1年間、幹事の大役を無事終えること
が出来ました。本当にありがとうございました。

次年度になりましても楽しいロータリーライフを
続けましょう。



職業奉仕委員長
理事 山本康一郎

2020-21年度の職業奉仕委員会の委員長を仰せつかりました山本康一郎です。一年間宜しく願い申し上げます。

私の会員歴は、阪神・淡路大震災直後の1995年6月に神戸東ロータリークラブに入会させて頂き在籍25年になります。2018-19年度に幹事を経験させて頂き、一年間のリフレッシュ期間を頂き、本年度、ロータリーの基本とも言える職業奉仕委員会を預からさせて頂くことになりました。

私は、ロータリー歴が長いばかりで歴代の職業奉仕委員長のような職業奉仕への理解や見識もなく、無論、語ることも出来ません。にわか勉強で対応せざるをえず大変心苦しく思っています。しかし、幸いにして当委員会メンバーには、四方副委員長を始め、塚本会員、吉田健美会員、澤田会員、上月会員、有井会員と重厚かつベテランメンバーを預かっています。その中には3名もの会長経験者に入っており、大変心強く、教えを請いながら有意義な活動を進めてまいりたいと考えています。

そして、2020－21年度職業奉仕委員会では、地区ビジョン及び戦略計画で示されている通り、当地区の誇る職業奉仕の理念について考えることが新たな一歩につながるのではと思い、微力ながら役目を

果たしていきたいと思っています。

今年度は、職業奉仕を考える上で、職業人として新型コロナウイルス感染症に立ち向かうことが求められ、そして、共に乗り越えなければなりません。神戸市では3月から感染症拡大が急速に進み、緊急事態宣言解除を経て落ち着きを取り戻しつつありましたが、ここに来て感染者が増加し始め、第2波にむけた事業継続の備えが必要となり始めました。

この間、会員の皆様もコロナ禍の中で職業人または経営者として、そして、ロータリアンとして大変な苦労や心配を通し、考えさせられたことが多々あったと思います。是非、例会での歓談のなかで、それぞれが考えられたことや行動された事などの有意義な情報を交換して頂ければと思います。

今後の我々を取り巻く経済環境は「ひと・もの」の動きが収縮し、景気に大きな影響を及ぼすと思います。各社のダメージの大小はともかく、それぞれの業種では、需要が戻るまでには相当の月日が必要と思われます。一日も早い回復をお祈りすると共に「新たな生活様式」が始まり、少しでも日常生活が良い方向に向かうことを心から願っています。

最後に、時代は「With コロナ」となり、在宅勤務、テレワークなどによる働き方改革もスピードアップするものと思われます。業種によっては「新たな企業スタイルを創出」しなければ生き残れないかもしれません。企業を継続、発展させるには、職業奉仕の原点を顧みて従来よりも更に奉仕の理念を実践することが、ロータリアンとして経営者としての重要な役割と考えます。

それぞれの会員がご自身の職業を通じて社会に役立っていくことが職業奉仕であり、その手助けをするのが職業奉仕委員会の使命であると考えます。今後、委員会事業として、職場見学会や職業奉仕月間での卓話等を企画いたしますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



社会奉仕委員長
理事 植村 浩史

本年度、社会奉仕委員長を拝命しました植村浩史でございます。

若輩者でございますが、鮑会長の基本方針「クラブライフ “面白く！楽しく！カッコ良く！”」の通り、取り組んでまいりたいと思います。一年間、皆様方にはご協力をお願いいたしますのでどうかよろしくお願いいたします。

入会4年目であり、ロータリー用語にも、哲学にも精通していませんが、これを勉強の機会と捉え、皆様が築いてきた神戸東ロータリークラブの名に恥じないよう、行事に努めて参りたいと思います。

この挨拶に臨むにあたりまして、2680地区の2020年地区研修・協議会の社会奉仕部門の資料を読みました。その中にある、決議23－34にある、ロータリーは一つの人生哲学であり、利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人の為に奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕「超我の奉仕」の哲学であり、「最も奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原則に基づくものである。と書いてありますが、地域で事業を営んでいる皆様、やはり地域で活動している神戸東ロータリークラブとして、地域に住む人々の生活の質を高め公共の為に奉仕することは社会的責務となるのではないかと考え

活動してまいりたいと思います。営利を求める企業においても事業活動するうえで求められている、CSRやESG、SDGsというものがあり、ロータリアンとしても、企業人としても考えねばならない哲学だと思いました。

2020－2021年の当クラブの社会奉仕委員会の奉仕活動としましては、長期的な観点に立った継続事業としまして、

- 1) 神戸市立友生支援学校生と神戸市立青陽東養護学校生への招待ボウリングの実施
- 2) 神戸東プロバスクラブの支援
- 3) NPO 法人クルーズの支援
- 4) 神戸東ロータリークラブが支援し、活動を続けておられる就労支援福祉作業所ボレロの支援を致します。そして、今年度の地区補助金事業としまして、

- 1) HAT 神戸の小学校・特別支援学校建設記念植樹事業を致します。

これは、HAT 神戸に新しくできる支援学校に、当クラブが長年支援している青陽東養護学校、友生支援学校の児童生徒の一部、約180名が移ります。新たな門出に際して人道的立場から地域住民の心を和ませ、地域の景観保全に貢献すると共に、植樹と共に新たな土地に根差し、新校舎から巣立っていく生徒・父兄の思い出の地となるように桜の記念植樹と贈呈式を行うものであります。植樹に当たりましては実際に立ち合い、スコップで土をかぶせ、プレートの贈呈式も執り行います。事前にご参加をお願い致しますのでご協力の程、招待ボウリングと合わせてお願い致します。

以上、この社会奉仕活動を通じて、地域に欠かせない神戸東ロータリークラブであり続けるよう、一年間取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。



国際奉仕委員長
理事 後藤 章暢

今年度、2020－2021年度国際奉仕委員長を拝命させて頂きました、後藤章暢でございます。よろしくお願い申し上げます。

基本方針としましては、本年度の会長方針の「ロータリーライフ“面白く！楽しく！カッコ良く！”」を基に、国際奉仕委員会活動を通して、神戸東 RC としての RI の理念の国際理解、国際親善、国際平和を推進していく具体的な活動を確立したいと思っています。

具体的活動内容としましては、

- 1) シスタークラブのあり方を検討し、その交流および関係の発展に努めます。
- 2) カンボジア VTT（職業研修チーム）事業のフォローアップおよび新規企画を申請ならびに実施します。
- 3) 地区グローバル補助金プロジェクトを実施します。
- 4) 国際奉仕委員会の事業や活動の広報を行います。

この4つの項目を今年度の重要活動事項に挙げています。ただ今年に入り、世界的に流行しているコロナ騒動で、今年度の国際交流を伴う国際奉仕活動

がどこまで可能なのか、現時点では予測が立ちません。一昨年から計画をすすめ、カンボジアのプノンペンメトロ RC との共同提唱事業として行った VTT（職業研修チーム）事業は、昨年3月に多くの神戸東 RC の当時の国際奉仕委員会のメンバーが協力して無事研修を終了することができました。昨年8月にはカンボジアでの現地検証も行い、最終日には多くの神戸東 RC のメンバーも参加していただき、セミナー形式の報告会も開催されました。今年2月には、現地での病理検査センターの開所式典に参加させていただき、今後の VTT 事業の継続を議論してまいりました。最終的には今年の5月に RI の VTT 事業としての報告書と会計が承認され、無事 VTT 事業が終了し、次の新たな申請が可能な状況になっています。今年の春前から RI の最終承認を待つ間に、継続性を持ったカンボジア事業として、今年度中の新たな VTT 事業としての実施に向けて、申請書の作成を準備してきました。現在、カンボジアへの渡航も制限されており、2) の申請書の作成を中断した状態です。このプロジェクトに対して、2680 地区からの高い評価も頂いており、事業の継続を計画していきたいと考えています。本事業年度が無理でも、将来的に、神戸東 RC の国際奉仕活動のプロジェクトとして継続できるものになることを祈念しています。

このような状況下で、本年6月に3)の地区グローバル補助金事業が採択され、「ホスピスボランティアハワイ研修プロジェクト」を本事業年度の11月にホノルル RC との共同提唱事業として、実施する予定にしています。6月末にハワイ州政府は、8月1日より、ホノルル国際空港到着前72時間以内の COVID-19 検査の陰性証明を提示できる旅行者には、現在施行されている到着後14日間の自己隔離措置を免除すると発表されました。この事業の実施に関しては8月中には決定させたいと思います。

コロナとの共生の中で、今年度はどのような国際奉仕活動ができるかわかりませんが、多くの神戸東 RC の会員が参加、協力できる将来の神戸東 RC の国際奉仕活動の礎を計画できればと思っています。国際奉仕委員会委員の皆様には急なお願いにもかかわらず、快諾していただき、誠にありがとうございました。委員会以外の神戸東 RC の会員皆様の当委員会への活動参加を歓迎し、同時にご理解とご協力をお願いいたします。この一年間、よろしくお願い申し上げます。





青少年奉仕委員長 理事 林 伯正

今年度、青少年奉仕委員長を仰せつかりました林伯正です。1年間会員の皆様方には、青少年奉仕活動のご協力をお願いすることが多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

青少年奉仕活動には、

『インターアクトクラブ (IAC)』

『ローターアクトクラブ (RAC)』

『RYLA (ライラ) セミナー』

『青少年交換留学制度』等がございます。

・『インターアクトクラブ』は12歳～18歳の中学生、高校生で構成。

・『ローターアクトクラブ』は18歳～30歳の大学生等の青年男女で構成され、共に地域社会に対する指導力・責任、家族・他人に対する思いやり・尊重、社会奉仕、国際奉仕への理解を学び、また、自己啓発、相互の親睦を深めることを目的としています。

私自身も大学4年生の時に数名の大学生と、当神戸東ロータリークラブ植村孝一会員、乙守典厚会員、に引率していただき、淡路島への1泊

2日旅行に参加し、有意義な時間を通して奉仕の精神をしっかり学ばせていただきました。

・『RYLA セミナー』は四国全県第2670地区と兵庫県第2680地区が合同で40年余り、毎年香川県小豆島の神戸YMCA余島野外活動センターにおいて、3泊4日の共同生活の下、講義、リレーション等を通して青少年指導者の養成を行っています。

・『青少年交換留学制度』は、15歳～19歳の少年・少女を他国に留学してもらい、そこで学んだ知識・技術・風習を自国へ持ち帰り、自国の発展に寄与してもらう制度です。

今年度の具体的な活動内容は以下の2つです。

1. 継続事業の「永田萌先生との写生会」

近隣の幼児、園児及び小学生を対象とし、毎年保護者等から評価をいただいている神戸王子動物園にて画家の永田萌先生との1日絵画教室を開催予定ですので、委員会メンバーだけでなく、会員の皆様方にもご協力をお願いいたします。

また、神戸東ロータリークラブの存在意義をもっと表現出来るよう今年度は工夫したいと思います。

2. 新規事業の「兵庫県外国人学校協議会音楽会」

今回初めて後援をするので、どういう関わりになるのか未知ではありますが、兵庫県が提唱する「多文化共生社会」の実現に役立つよう後援者として音楽を通して、兵庫県外国人学校と共に、外国人学校間、兵庫県民、神戸市民との友好と親睦を深め、地域の国際化に貢献しようと考えています。

今年度中止・延期となった活動内容

1. 『青少年交換留学制度』

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大に伴い、やむを得ず中止となりました。

2. 『インターアクトクラブ』

前委員長が活動を再開されましたが、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の影響で活動スピードを緩めざるを得ない状況です。

以上となりますが、鮑会長のテーマ『面白く！・楽しく！・カッコ良く！』の基本精神を心に刻み、自分自身も楽しみながら、1年間、精一杯、青少年奉仕委員長を務める所存でございます。委員、会員の皆様方におかれましても、今後ますますのご協力を何卒よろしくお願いいたします。





澤田 正樹

新型コロナウイルス感染症：知彼知己

現在令和2年6月末、新型コロナの感染状況もなんとか小康状態になり、医療機関の受け入れ状況も緩和し、第2波の嵐の前の静けさといった雰囲気です。第1波を経験し、徐々にこの病気の病態が解析され、いろいろと試された治療法も確立されつつあり、死亡率は低下してきているように思います。つまり、医療機関さえ逼迫しなければ、感染者が急増しないようにコントロールしながら、治療を行なっていけば、ワクチンができるまで、何とか乗り切れると思っています。

治療法は、感染早期であれば、ウィルスが細胞に侵入し感染するのを阻害するフサン、ウィルスが感染細胞内で増殖するのを阻害するアビガンの投与が考えられます。ただ、アビガンは生殖器への影響が懸念され、若い人に使いにくいのが問題です。生殖と縁遠い高齢者に使っても、尿酸値が高くなる以外、問題はありません。感染が進行した場合、体内のウィルス量が多くなり、肺の奥の肺胞に感染したら厄介です。この状況では、ウィルスそのものではなく自分の体の防御システム、つまり免疫機構が異常に暴

走することが問題になっています。この場合、最も重要と考えられているのが、IL-6というサイトカインです。このIL-6が全身に大量に広がり、いろいろな臓器に作用して臓器不全になるのが大問題です。ただ、これをブロックすることにより症状が改善することがわかってきました。このIL-6をブロックするのがアクテムラという薬です。病状が次々と急速に変化する中で、病状を適切に診断し、適切な治療薬を使うことにより、救命、治癒にいたると考えられています。

2メートルのソーシャルディスタンスとはどういう事でしょうか？10年前に新型インフルエンザが流行った時、広範囲に研究が行われました。当時のインフルエンザの感染力は今回のコロナの何倍も感染力が強いといわれています。ただ、毒性は逆に今回のコロナが強そうです。当時のインフルエンザの研究で、咳やくしゃみをした時、 $5\mu\text{m}$ より大きい飛沫は2メートル以内に落下することが分かりました。このデータを踏まえ、ソーシャルディスタンス2メートルが推奨されるようになりました。ただ、飛沫が落下するまでに、水分が乾燥して、飛沫が軽くなると、空気中を浮遊するものもあると考えられています。1回のくしゃみで4万個の飛沫が飛ぶと考えられていますが、コロナではこの4万個の飛沫のうち、数個にしかウィルスが入っていないと考えられます。その飛沫のほとんどは落下して、ウィルスを含んで浮遊する飛沫はごく1個あるかないか、極めてゼロに近い数と考えられます。咳やくしゃみを連発したら、当然、ウィルスを含んだ浮遊飛沫の数は増えます。ここで、部屋の換気が重要です。換気が良ければ、浮遊飛沫はあっという間に飛ばされて部屋から出てしまうか、HEPAフィルター付きの空気清浄機が作動していれば、そのフィルターにひっかって無害になります。問題は、換気の悪い、エアコンだけの狭い部屋です。何回もくしゃみや咳

をされると、外に出て行かない浮遊飛沫が増え、感染の可能性が高くなります。カラオケ店は、音が外に漏れないように密室になっています。密閉空間の中で、浮遊飛沫中のウィルスは3時間生きると言われています。感染者ではない仲間とカラオケ店に行ったとしても、前に入った客やその前3時間前までにその部屋に入った客の中に感染者がいた場合、部屋の空気中にウィルスを含んだ浮遊飛沫が漂っている可能性が考えられます。また、もう一つの問題は、さきほど言った、落下飛沫です。落下飛沫は、状況によっては3日間生きるといわれています。落下飛沫内のウィルスに触れる機会があることを忘れないことが必要です。ただ、触れた皮膚から感染することはありません。手を目や鼻や口に持っていかなければ大丈夫です。2メートルのソーシャルディスタンス、マスク装着、手洗いはとても重要です。

私は、何とか敵の挙動を知り、敵の攻撃を避けながら、場所と相手を選別して、袖触れ合う距離で日常生活を送りたいと思っています。





有井 滋樹

COVID-19

1918 年から 1920 年までの約 2 年間、新型ウイルスによるパンデミックが起きました。いわゆるスペイン風邪ですが、当時の世界人口の 3 割に当たる 5 億人が感染し、2000 万 - 4500 万人が死亡したそうです。当然、日本にも伝播し、当時の人口 5600 万人のうち 45 万人が亡くなりました。神戸ではとくに甚大な感染拡大が生じ、市内で 7000 人以上が死亡されたとのこと。新しい病原体としてウイルスが発見されたのが 19 世紀の終わりごろであり、この 20 世紀初頭にはこの病気の原因がウイルスであることは想像すらできなかったことでしょう。

それから丁度 100 年、またもや私たちはパンデミックに襲われました。過日、東京、大阪、宮城の抗体検査の結果が報告されましたが、それぞれ 0.1%、0.17%、0.03% と思ったより低い値で、感染力としてはそれほど強くないというのが私の実感です。このデータを使って、神戸での感染状況を客観的、科学的に知るために死亡率と感染者数・率を推定してみました。神戸も大阪と同じレベル

〈0.17%〉と考えますと、140 万人の 0.17%、2380 人が真の既感染者となり、報告されている神戸市の感染者数 285 人の 8 倍強であり、納得できる数値に思います。これは約 3 か月間、ほぼ 100 日間の累計ですので、1 日当たりに換算しますと、24 人が感染し、そのうち 2.85 人が発症し、0.12 人が死亡〈12 人〉ということになります。発症者中の死亡率は 4.2%、感染者全体では 0.5% となり、過去の疫病、例えば天然痘やペストと比べてはるかに死亡率は低く、若い人にとっては無症状のことも少なくありません。しかし、このことが本感染症の終息を困難にしている要因でもあります。あなどって対策を間違えると西ヨーロッパ諸国や北米、南米のようになりかねません。全国集計のデータでは、感染が明らかになった 80 歳以上では死亡率は 11.64%、死亡者の 51% が 80 歳以上と、高齢者にとっては恐ろしい病気です。

一般に感染が 14 日間続くとすれば 14×24 人 = 336 人が 1 日当たりの陽性者となります。（これは平均値ですので、感染の極期にはこの数倍の数と考えられます。）336 人は神戸市の人口 140 万人とすれば 4170 人に一人ということになります。私どもの発熱外来ではコロナ感染が心配ということで来院された方を 500 名以上診療しましたが、濃厚接触者や海外からの帰国者以外はコロナ感染の患者さんは皆無でありました。さらに、4 月 20 日 - 5 月中旬まで手術前の患者さんやコロナ感染以外の疾患で入院される約 150 名の患者さんに対して PCR 検査を行いました。このことは上記の推定から大いに頷けるデータです。現在はおそらくこれよりもはるかに少ない陽性者数でしょう。（なお、クラスターや院内感染などを考慮すると弧発例の割合はもっと低い）。

今、もっとも大切なことは今回の対策の妥当性をデータに基づいて科学的に検証し、これを第 2 波の

対策に生かし、第2波が猛威を振るったスペイン風邪の二の舞を避けることと思います。

専門家会議の委員から再生産数という耳慣れない言葉が出されました。再生産数とはウイルスの感染能力を示し、一人の感染者が何人にうつすかという数値であり、基本再生産数とは免疫を持たない集団の中での再生産数を示します。実際には再生産数はその集団の免疫状態（抗体保有率）や人々の行動（接触を断つなど）により変化し、それを実効再生産数と呼びます。

実効再生産数を R 、免疫獲得者の割合を T とすれば $R \times (1 - T)$ が 1.0 以下になれば収束するとされています。例えば国民の 25% が免疫を持っている場合、 R が 1.3 以下となれば、この値は 1 となり収束に向かいます。 R が 2 の場合には T は 0.5、すなわち 50% 以上の抗体保有率でないと収束に向きません。したがって、今回のように新しいウイルスで抗体保有率が 0 に近くしかも効果的な薬、ワクチンもない場合には他人との接触を断つことが「移さず、移らない」ことになり、感染者はいずれ抗体ができて自分の免疫力で治癒し、感染は収束するのでしょう。

専門家会議は「80% まで他人との接触を断つ」ということを国民に要請しました。そのとき、私たちにはその根拠は示されませんでした。当時、 R は 2.5 と考えていたようで、 $2.5 \times (1 - T)$ が 1 以下になるには T が 0.6 より大でなければなりません。すなわち抗体保有率が 60% を超えることです。ここで二つの質問があります。一つは R が 2.5 という根拠、あと一つは 80% の根拠です。後者の根拠は免疫獲得者（抗体保有率）が 60% 存在することと「80% 接触を断つ」ことが同等とみなした結果でしょうか。

対策としてわが国では一律に自粛が要請され「80% 接触を断つ」方法をとりました。しかしこの

方法は社会経済的にダメージが大きすぎ、長期戦に堪えられるような持続可能性に乏しいと思います。東京では抗体保有率が 0.1% とすれば 3 - 5 月の約 100 日の間に感染した累計が約 1 万人ということになり、決して検査が追いつかないほどではありません。人と濃厚接触する機会の多い職種の方（ほとんどがマスクなしの会話や発声で感染、触れることはこまめな手指消毒で対応可能）は義務として PCR 検査を定期的に受けるシステムを構築することを考えてもいいと思います。よい特効薬やワクチンができるまでは不便で楽しくありませんが、覚悟を決めて「新しい生活様式」を実践しつつ社会の営みを維持することが必要と思います。そして一方では重篤化のリスクの高い高齢者の保護と医療体制の確保に注力することと考えます。

人は恐怖に襲われると異常な心理状態となり、冷静で合理的な判断能力が低下したり、他者に対する差別、偏見も起こり、正常な人間関係までもが侵されます。100 年前にはデマやフェイクニュースが飛び交ったようです。100 年たって世の中は大きく様変わりし、進歩もしましたが、人の心は変わらず、今回も同様なことが発生しました。全国でステイホームが強く推奨されましたが、ぜひステイクール（冷静にいきましょう）、ステイテンダー（優しくしましょう）も忘れないようにしたいものです。



各業界のコロナによる影響と今後の見通し



新型コロナウイルスの
影響による
アパレルの現状

井元 憲生

新型コロナウイルスの影響で、世界経済も戦後最悪の経済成長率と言われていますが、アパレルは其中でも厳しい状況に立たされている業界の一つです。そのアパレル業界に属する私の会社の状況と取り巻くアパレル市場全体も、これまでにない窮地に立たされています。

まず、私の会社ですが（昨年 2019 年度は売上 120 億円、営業利益が 11 億円でした）、新型コロナウイルスが発生したことで直営店舗 220 店舗が休業、そこで働く 1200 名も自宅待機を強いられました。その結果、2020 年度の売上見込みは 70～75 億円（昨年の 60% 程度）、営業利益にいたってはマイナス 15-20 億円になると予想しています。緊急事態宣言が解除され、ここにきて回復傾向にありますが、市場全体は元には戻っていません。そもそも、アパレルの市場規模は現在 10 兆円。高齢化などが要因となり 2025 年には 7 兆円になると言われていました。そのタイムリミットが一気に短縮化され、急激に市場の 30% が消失することになりました。これに伴い、業界に関わる人材も 120 万人から 70 万人に縮小せざるを得なくなり、ビジネスモデル・産業構造全体が急激に大きく変化していくことに繋がっています。

一番気になるのがこのアフターコロナの産業構造がどう変わっていくのかという点ですが、今回の新型コロナウイルスを経験した後ではお客様の価値観が変わり、ライフスタイルが変化することから、リアルなビジネスが減少し EC 比率の上昇するなど、販売スタイルが様々になると思われます。ただし、EC 比率は上がりますが市場の総キャパシティは縮小傾向であるため、市場全体の活路が見いだせるとは言えません。その先の道筋がようやく見えてくるのはまだこれから。新しい生活様式や人々の働き方、消費行動の変化の方向性を注視して、新たなアパレルビジネスを考えていく必要があると思います。

「衣料崩壊寸前」の業界の中で、「衣料従事者」である私は窮地に立たされていますが…、私の仕事の本質は“お客様に喜んでいただける商品を提供すること”に変わりはありません。メザシを食べて頑張っていきたいと思います。



工藤 恭孝

私の関係する会社の小売部門の、この 4 月、5 月の売上は政府の閉店要請のため、それぞれ 前年対比 55%、65% となり、大赤字の状況となっています。

合理性を欠いているのではとも思われる「8 割自粛要請」で過度に民間に負担を強いた結果がこれです。言い換えると、自分たちだけは責任を取りたくない言う保身度の高い「政治」「行政」そして「経営」が招いた結果ともいえます、「組織防衛優先」とマスコミに叫ばれる所以でしょう。

「自粛要請」が解かれた 6 月現在は 103% と前年を上回ってはいますが、今期中に挽回を図るのは難しいでしょう。

今後、日本が新型コロナ終息を向かえたとしても、世界の感染者数が明日にも 800 万を超えようとする中、日本だけが無菌国であり続けるはずはありません。

自分たちの事業が社会に必要とされていると考えらるなら、感染予防管理を前提としながらも困難を乗り越えてその事業を継続する使命があるのではないのでしょうか。



自動車業界の コロナによる影響と 今後の見通し

西原 興一郎

要約：車の業界は、2～3年前より100年に一度の変化の真只中に在ります。

CASE、MAASと言われている車の価値観の変化です。

所有と使用

エコ、省エネ、安全性、全てが変わりつつ有ります。

コロナは、その変化の最中に出現しました。

コロナに限った影響

生産面 サプライチェーンの切断
生産性の一時的な激減
雇用の喪失

販売面 需要の減少

整備面 保有の変化は少なく影響は殆どない。
安全面に対する法規変更に伴う対応の遅れ。

その他の ON LINE 化等、変化が早くなる。



新型コロナ禍における 不動産の今後

田中 健三

住宅：日本の永年の人口減少傾向により需要が減少していた所に追打ちとなったこの度のコロナ事象により、唯一価格を維持していた東京都心の高級マンションもオリンピックの延期の影響も重なり下降局面に入った。

全国的には戸建・マンションはコロナ以前から各都市の駅前立地とその他の地域の二極化が進んでおり、その差が顕著になっている。但し、郊外の庭付戸建等は賃料が激減していることから、テレワーク・リモート会議などの増加に伴い需要が増える事も想定される。

事務所：今後の事務所需要はその既存の面積規模が大きい為、今回一番影響を受けると考えられる。以前から進んでいた、オンライン・デジタル化が益々進化することにより、人員削減・事務効率化等事務所面積の削減が進み、支店や営業所の整理統合により地方都市の需要の減少が進む。これは不動産業界での最大の負の遺産となる。

商業施設：この分野もEC（電子商取引）の急激な進展により、食品・日用品以外の百貨店や郊外のショッピングモールも店舗展開の見直しがコロナ禍により一層迫られる業界です。但し、買物体験という貴重な場面は今後も重要視される。

ホテル：大半を占める日本人の需要は近々回復し、訪日外国人もコロナが収束したら需要も上昇トレンドに復帰するが、ここ数年のインバウンド需要や東京オリンピックに備え、ホテルの建設ブームが現在も全国的に続いており全てが完成した時の需給バランスを考えると大きな不安要素になる。

物流施設：EC利用が進み特に食料品・日用品等配達のラストワンマイルの倉庫・冷蔵倉庫等の需要の増加が見込める。流通の根本的な変化が起こり生活形態が益々変化していく。唯一有望な市場となり得る。

その他：病院・介護系施設・老人ホーム・データセンターは今後の需要が見込まれ、リゾート施設・ゴルフ場は供給過多と人口減少のため今後は厳しいと考えられる。



山本 裕計

IT 業界においてコロナ禍の影響は、商談や打合せの機会が減ったため新規プロジェクトが停滞している悪影響がある反面、テレワーク設備の需要などプラスの影響もあります。

コロナ禍から経済が立ち直るとき、元の形に戻る「復旧」でなく、新しい形で立ち直る「復興」であると考えます。「復興」により、どのような経済に変化が起きるかを推測し、その時に私たち IT 会社が力を尽せるように取り組んでいきたいと考えています。

たとえば、今までオフィスに社員を出社させていましたが、テレワークを採用することにより働き方が変化します。どうせ離れて仕事をするなら、人を採用するより、アウトソーシングしてしまえばいいという発想になります。

私も今まで頻繁に出張をしていましたが、オンライン会議が当たり前になって、出張が減りました。

営業活動も対面や展示会出展から、インターネットを使った広告やマーケティングにシフトすること考えられます。医院のように広い待合室を設けていた店舗は、スマホの順番受付システムに置き換わります。

アフターコロナをどう生き抜くかと悲壮感を漂わせるよりも、どう変化させていくか挑戦する気持ちを持って、前向きに仕事をしていきたいと考えています。



特別寄稿

コ ロ ナ に 思 う

「新型コロナウイルスのPCR検査に思う」

中井 章詞

感染症対策の基本は、検査と隔離が原則ですが、日本はクラスター対策と各人の行動変容を要請する事で感染拡大と医療崩壊を防ぐ戦略を選んだ為、諸外国に比べ極めてPCR検査が少ないのが現状です。経済協力開発機構の4月の発表では1000人当たりの検査件数は、日本の場合1.8人で、加盟36か国平均23.1人と比べ1桁少なく、下から2番目でした。幸い日本ではマスクと自粛生活の功あって第1波は乗り切られたかに見えますが、感染経路不明者が増加し、市中の感染者数が把握出来ない現状で、秋に第2波の襲来が予想される中、迅速かつ大規模な検査体制の拡充が急務です。国の援助も始まり、各自治体がPCR検査拡大に注力し始めた所です。また、最近簡易抗原キットが世に出始めましたが、感度の問題が残り完全にPCR検査に取って代わる物ではなく、今後も、PCR検査の重要性は失われる事はありません。

これまでロータリアンはフェイスシールド等の寄付を行って来ましたが、これは守りの戦術と言えます。今後は攻めの戦術つまり、第2波に備えPCR検査を拡充拡大し無症状患者の検査隔離こそが必要かつ重要となります。

神戸市においては、これまで保健所主導の行政検査としてPCR検査が行われ、医師からの要望に応えるだけの処理件数に、物的にも人的にも対応不能の状態でした。そこで今回、神戸市医師会は、約650万円をかけて陰圧検査室を設け、さらに、自動PCR測定器購入設置費用1135万円を拠出しましたが、これらは国の援助の対象とならず、市医師会

が全額負担する事になりました。この為に、市医師会は資金的体力を消耗し、今後の感染拡大時に市民を守る活動に支障が起こる懸念が生じ、援助を求めています。これに応える事は、ロータリーの地域に根差した意義ある立派な社会奉仕活動となるのではないのでしょうか。ロータリアンによる市医師会への援助を当クラブだけでなく第1・第2グループの問題として広く取り上げて頂ければ幸いと存じます。

「コロナに思う」

弘田 芳裕

この度の新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けられた皆さまに心よりお見舞申し上げます。

弊社は主に飲食店様向けに酒類を販売しておりますが、3月中旬から徐々に影響が出始め、4月・5月は大半のお取引先が休業されましたので、売上は前年同月比80～85%減と惨憺たる状況でした。

6月に入り、自粛要請の解除に伴い多くのお店が営業再開されましたが、4・5月休業のまま閉店されたお店もあり、また再開されてもコロナ以前の売上に及ばないお店も多く、今しばらく売上の回復は相当厳しいと考えています。

加えて第2波流行の懸念もありますし、在宅勤務やリモート会議などの「働き方改革」で人々の意識（今までは当たり前と考えていた、例えば「会社帰りにちょっと一杯」「大人数で宴会」「カラオケで熱唱」「キレイどころと同伴?!」など）が変わりつつあること（もちろんワクチンの開発などである程度元に戻るとは思いますが）は、飲食業界や我々の業

界にとって今後の大きな課題です。

今回のコロナ禍では、当クラブ会員の和田新さんに雇用調整助成金などで大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、ご心配ご配慮頂いた先輩諸兄に心より感謝申し上げます。

このような状況のなか、当クラブに在籍させて頂いていることは私にとって大変心強く本当に幸運なことと改めて感じております。

厚く御礼申し上げます。

「コロナに思う」

吉田 博

新型コロナウイルス「以下（コロナ）という」は中国の武漢から発生したとされている。

日本では、令和2年2月のクルーズ船の隔離停泊以来、大きな問題となってきた。令和2年3月29日には、コロナによる肺炎で、志村けんさんが70歳で死亡し、同年4月23日には、同様に、岡江久美子さんが63歳で死亡した。この二人の有名人の死亡により、コロナに対する緊張感が社会の中で充満したと思う。

令和2年4月7日には、5月6日を期限として、兵庫県を含む13都道府県を対象として新型インフルエンザ等特別措置法による緊急事態宣言が発出せられ、4月16日には、この宣言は全国に拡大された。この宣言により国民は様々な自粛を求められた。この宣言は一度延長されて、5月21日には、東京などを除き解除され、5月25日には、全て解除された。

多くの方が大なり小なり影響を受けておられますが、私は個人的にこのコロナにより大きな影響を受けた。

私は、昨年10月24日に最高裁判所において、最高裁判所長官表彰を受賞し、更に、はからずも令和元年の秋の叙勲に際しまして、旭日双光章受賞の

荣誉に浴しました。

昨年12月11日に法務省大会議室において、勲記・勲章の伝達を受け、その後、妻と共に皇居へ参内し、「春秋の間」にて、新しい令和の天皇陛下に拝謁の栄を賜り感謝の極みでございました。

これも偏に、皆様から永年に亘り頂きましたご指導の賜と心より感謝している处です。今後はこれらの荣誉に恥じる事のないよう一層精進いたす所存でございますので、神戸東ロータリークラブの方々には、変わらぬご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ところが、兵庫県司法書士会の会長や須藤雄二神戸東ロータリークラブ会長(当時)らが発起人となって叙勲等の祝賀会を令和2年3月21日の土曜日に、ホテルオークラ神戸で開催して頂く予定でしたのですが、政府の指導によるコロナウイルスの感染防止のため、祝賀会を中止することになりました。

誠に残念無念としか言いようがありません。

就中、神戸東ロータリークラブのコーラス同好会のメンバーが祝賀会に友情出演してくれる予定で、熱心に練習会を何度も開催し、メンバーの方々も真剣に練習を重ねていただいていたところでしたので、特別に残念に感じました。

もう一つ特筆すべきは、緊急事態宣言が発出せられた時機に、高嶋哲夫著、「首都感染」（講談社文庫）という文庫本が、新聞広告で宣伝されていた。本の帯に、強毒性、インフルエンザ・ウイルス出現、感染者の移動を禁止しなければパンデミックは阻止できない。“総理は東京封鎖を決断した。”とあり、裏表紙に、「20××年、中国でサッカー・ワールドカップが開催された。しかし、スタジアムから遠く離れた雲南省で致死率60%の強毒性インフルエンザが出現！中国当局の封じ込めも破綻し、恐怖のウイルスがついに日本へと向かった。検疫が破られ都内に

も患者が発生。生き残りを賭け、空前絶後の“東京封鎖”作戦が始まった。」とあり、読んでみると、今日のコロナウイルスの感染拡大を予想したような内容の小説を約10年前に発表していることに驚嘆致しました。主役は時の総理大臣の息子で、元WHOの感染症のエキスパートの医師で、彼が実質的に、東京封鎖を指導する。勿論フィクションではありますが、読み始めたらやめられない小説です。とにかくウイルスについて本物の恐怖感を味わいながらドキドキわくわくして信じられない事態に遭遇します。是非ご一読をお勧め致します。

「コロナに思う」

三野 哲治

企業のBCP（事業継続性）が問われた2008年のリーマンショックや、2011年の東日本大震災の際は、会社経営の最前線で奔走したが、今は現役にエールを送る立場となり、一人の家庭人としてのコロナ禍雑感である。

年初、中国武漢で新型肺炎の流行が報道されたとき、ここまでの世界的大蔓延、パンデミックを予想できなかった。だが現実には、東京オリンピック、パラリンピックの延期に止まらず、世界経済を揺るがし、さらには社会システムの変容まで迫られる事態となってしまった。

私自身とはいえば、2月に予約していた家内との「台湾ランタン祭り旅行」を直前になってドタキャン、楽しみにしていた孫たちとの5月連休「白浜パンダ旅行」もあえなく中止、ロータリー例会をはじめ、ほぼすべての会合、懇親会がなくなった。最低限の体力維持のために続けている箕面滝道への散歩を除けば、まさしくステイホーム、自宅引きこもりの毎日を余儀なくされた。

一方で、現役で働く皆さんにとっては、在宅勤務に対応するため、ステイホームが急遽要請された。

住友ゴムの神戸本社では、国の緊急事態宣言中は在宅勤務者が8割を超えたという。IT化を推進するチャンスであるが、すべてリモートワークという訳にもいかず、これを機に、各企業にマッチした手法を導入、働き方改革にもつなげてほしいと思う。

先進各国では、コロナ禍の第一波のピークは一旦抑え込みに成功したかに見えたが、景気回復を急ぐあまり、再び感染者を増加させつつある。おまけに新型コロナウイルスは若者の多くが感染しても無症状で、我々高齢者に重症化リスクが高いという。「なんと不公平な！」と思うものの、ワクチンが開発されるまでひたすら辛抱するしかないようだ。

「コロナ禍 - 医家として」

三戸岡 英樹

それは突然やってきた。1月に中国武漢で新型コロナウイルス感染症が発生した報道は聞いていたが、Sarsの時と同じようにしばらくすれば日本には関係なく終わるだろうなどと楽観的に考えていた人が私を含めほとんどであったと思う。ダイヤモンドプリンセスの香港から乗船した乗客一人から多数の乗員に感染が広がり、そして神戸大学感染症内科教授 岩田先生の搭乗話が話題になりだしたところからだんだん雲行きが怪しくなっていく。誰が100年に一度の世界的パンデミックになることを予想していただろう。私が60才から始め週2-3回稽古に励んでいた合気道のお稽古も濃厚接触ゆえに2月の終わりを最後に中止になった。あれよあれよの間に自分の取り巻く環境が急速に変化していった。長年診させていただいている90才に近い老年の患者様がこの変化の仕方が戦争（第二次世界大戦）が始まった時とよく似ていると言われたことは印象的だった。自分の力で抗することのできない得体のしれない力により人間の生活が変容していく様は66年の生涯の中で初めての経験であり色々なことを考えざるを得な



い環境に置かれた。3月頃から診療患者数は減り始め5月にピークを迎えることになる。仕事量が減ると共に自由に使える時間が結果的にどんどん増えていった。まず新型コロナウイルスがどんなものでいかに対処すべきかに取り組んだ。学生時代のウイルス学の本、専門家との意見交換、信頼できるWeb情報からこのウイルスと人類は最終的に共生の道を歩むしかないことを悟った。死亡率は一部の人（高齢者、基礎疾患保有者）を除けば高くない、それゆえに感染が広がりやすい。また不顕性感染（無症状感染）も多い。どんな年齢でも重症化すると短期間で悪化し死に至ることがあるなど、いやらしいウイルスであることがわかってきた。そして人口の60%程度が感染し集団免疫が完成するとこのウイルスは人への感染性を失い現在のインフルエンザと同じ範疇に入る、5-10年すれば現在の脅威は必ず過去のものになることを学んだ。つまり重症化することなく、不顕性感染から集団免疫の中に入ることが可能であれば望まれる。不顕性感染成立のキーは仮にウイルスに遭遇しても大量曝露を受けることなくその量を減らすことにつきる。このための基本は今常識になっている三密を避ける、ソーシャルディスタンスを守る、会話時にはエチケットとしてマスクを着用すること、そしてウイルスの身体侵入口である目、鼻、口に手を持って行かない習慣の履行、最も重要なことはこのウイルスはアルコール（エチルアルコール70-80%）あるいは石鹸（20-30秒洗う）で簡単に死滅するため気が付けば頻回に手指消毒をすることにつきると腹を決めた。見えないウイルスをいくら怖がってもしかたない。むしろ常に自分の周りに存在していると考えて行動した方が前向きに生きられると悟った。ウイルスを含めてどんな病気に対しても重要なことは健康な生活を送り病気が入り込む隙をつくらないことである。そのカギは食、運動、そして心である。そのように覚悟を決めたら心

が晴れやかになった。大きな環境変動を生き延びるためには変化が必要であることは人類の歴史が物語っている。自分がどのように変化していくか、しっかり視てゆこうと思う。

「コロナに思う」

福原 敏晃

令和2年の1月21日、一般社団法人兵庫県洋菓子協会の新年名刺交換会を神戸ポートピアホテルにて挙行し、今年も井戸知事、久元市長ならびに兵庫県神戸市関係各位のご出席をいただき盛大な会となりました。

ご来賓の挨拶の中で井戸知事が中国の武漢でウイルスが発生し大変な事になりつつあるとお話しされましたが、その時は他人事として軽く受け止めていました。

しかし、中国の武漢で新型コロナウイルス感染症の感染者が増え大変な事態になっている事を連日の報道で目や耳にする事態となり、いずれ日本にも蔓延するのではないかと危惧しておりましたら、2月の終わりには農林水産省からガイドラインが発表され、私たち洋菓子屋は3蜜を避け、マスク着用、手の消毒、飛沫防止用のビニールシートの設置、体調不良者への配慮など充分に気をつけて商いを行う準備をいたしました。

しかしながら、状況はさらに深刻になり、当社は百貨店にも店舗を展開していますが、超繁忙月の3月にいきなり毎週火曜日計4日間の臨時休業、4月8日には緊急事態宣言による百貨店の長期臨時休業に追い込まれました。

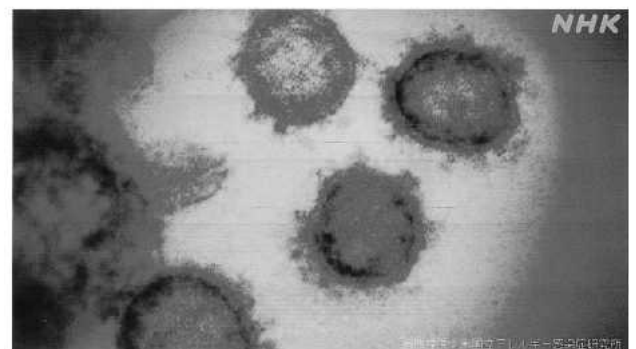
緊急事態宣言後、私達の業界において、郊外の路面店では平常より売り上げが上がった店も多く、逆に中心部の百貨店等専門店で店舗展開している洋菓子屋は売り上げ0を経験しました。

その時に思ったことは、営業形態を変えて、他力

ではなく自力でこれからの商いをしていかなければならないということです。早急にホームページのリニューアル、ネット販売の強化、デリバリーサービスの強化、そして実店舗のサービス向上を目指さないと生き残れないと、25年前の阪神淡路大震災の時と同じくらいの危機感を覚えました。

お菓子は嗜好品です。しかしコロナ禍の中でも、ご自宅で家族団欒の時に美味しいお菓子を提供させていただけるよう商品開発にも力を入れました。

今回のコロナ禍はこれからも続く事を前提に生活習慣を見直し、どんな国難が来ても商いを継続できる方策をできるだけ早く、業界全体で考え、先を見据えて準備を整えていきたいと思います。





日垣 潤一郎
ー積水ハウス西日本特建支店ー

令和元年6月25日に伝統と格式高い神戸東ロータリークラブに入会させていただきました。ご推薦いただきました井元副会長、小坂様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

私は昭和48年1月17日に生まれの47歳です。兵庫区の湊川中学から同志社国際高校、同志社大学工学部を卒業しました。大学の途中まではスポーツ新聞社に入り競馬記者になるのが目標でしたが、阪神大震災で神戸の現状を見て衣食住の大切さ、特に住という部分、建物についての重要性を感じて、自分自身が建築という仕事に携わりたいと考えるようになり、建築業界に入りました。五洋建設という中堅ゼネコンで日本に留まる会社が多い業界で1960年代に日本のゼネコンで初めて海外の仕事、スエズ運河の拡張工事を受注した会社です。五洋建設で建築設備の技術屋として約10年お世話になったのですが、その9割が希望である現場、残り1割が設備設計・積算業務、また竣工間際の短期間でありましたが、シンガポールと香港の駐在と幅広い経験をさせていただきました。

15年前に積水ハウスに転職しました。個人様との営業に携わりたいということが大きな理由ですが、生まれ育った関西、特に両親の住む神戸の街に戻る必要もあったのも要因です。積水ハウスでは個

人様や資産管理会社様の所有する不動産の土地有効活用を提案する特建事業部（弊社の中で特殊な事業部、自社の工場部材を用いた建物がメインであるのに対して、工場部材以外の建物を扱って建築請負受注する、いわゆる一般のゼネコン様と同じ様な鉄筋コンクリート造等の在来工法の建物の受注している事業部）に営業マンとして入社しました。当時は弊社の工場部材を使った建物は10m以下の3階建てに限られていましたので、それ以上の高層賃貸マンション、介護施設、自社ビル、商業施設等を手掛けておりました。今では4階建てまで工場部材で出来るようになりました。近い将来、幅広い部門の建物でも工場部材を使った建物で建築できるようになってほしいと今会社にも働きかけております。最後に弊社の宣伝になりますが、工場部材、いわゆるプレハブというとか安っぽいとか在来建築に比べて高級感がないとかイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、弊社の建物は自由設計度が高いため現場で造る部分も多いです。ただ現場の職人さんの高齢化、建築業界の人手不足は深刻です。ベトナムをはじめ海外からの労働者の教育、確保にも努めておりますが、彼らが入ってもすぐに現場のベテランの技能工に劣らないような様々な工法や自動化を取り入れております。実はゼネコンにいた私から見ても非常に品質的にも優れており、例えば主要な躯体や雨漏れ等の防水に関して10年は保証するよう品確法で義務付けられております。それに従い大手ゼネコン様の建物も10年保証を定めているのですが、弊社の工場部材の建物は15年以上前からその2倍の20年保証、2年前からは30年保証をさせていただいております。最近テレビコマーシャルで流れている賃貸住宅のシャームゾンだけでなく、法人様から社屋の建設、人材確保を兼ねた寮・社宅も弊社の工場部材で依頼されることが多くなりました。道の駅など低層の建物にはすでに取り入れておりますが、いずれはホテルオークラ様のような建物も弊社の工場部材で取り組む道筋を作るのが私の目標であります。ご清聴ありがとうございました。



魚谷 勝 ーウインウインー

2019年5月7日に伝統と格式のある神戸東ロータリークラブに入会させて頂きました魚谷勝と申します。入会させて頂き、心より御礼申し上げます。

さて私、昭和32年11月30日に、兵庫県明石市に生まれました。

地元の明石公園に近い、大観小学校から衣川中学、明石南高校を卒業し、大阪経済大学 経営学部 経営学科に入学致しました。大学では主に、バイトとクラブ活動に明け暮れ、4年間グリークラブに所属し、3年生の時に関西合唱コンクールにおいて、銀賞を受賞致しました。そのおかげで、テレビ・ラジオにも出演させて頂きました。

その後、新卒で、(株)モードオリオン入社後、昭和59年3月に(株)就職情報センター（現：リクルート）に入社し、昭和62年に、(株)リクルートフロムエー（現：リクルートジョブズ）の川崎営業所所長を経て、平成元年、新宿営業所所長、同年、梅田営業所 兼 神戸営業所所長、その後、新大阪営業所・京橋営業所を兼務し、平成4年、(株)フロムエー関西（現：リクルートジョブズ）の営業部長就任。平成7年(株)リクルートフロムエーに戻り、神戸・大阪の支部長を兼務後、東京本社に戻り、じゃまール事業部・関東

版副編集長 兼 関東営業部長を経て、(株)横浜リクルート（現：リクルート）に出向し、平成11年、(株)リクルートフロムエー 大阪・神戸・京都の部長及び総合企画部長を経て、平成13年12月に(株)リクルートフロムエーを円満退社し、同月(株)ウインウインを設立し、広告事業を創業致しました。

そして、現在に至ります。

社は、 “人に社会に感動を与え、貢献する” でございます。

今後とも、ご指導の程、宜しくお願い致します。



(株)リクルート元会長 江副浩正氏



元 経済企画庁 長官 堺屋太一氏

※あえて、井元副会長のお写真は、添付致しませんでした（笑）



余韻会（俳句同好会）

令和二年二月十八日

於 西村屋 花みかげ

早春の風に閃きありにけり

奥田 好子

コロナ風邪陰陽見えぬマスク顔

畑崎 青峯

早春のゴルフコースのピン遠し

角田 伯堂

ゲレンデに降る雪もなく人も無く

則岡 弘士

よく寝たと友のメールや春の風邪

壺井 仙岳

春の風邪試験に向かひ背筋伸び

松谷 泰山

新型の風邪かと恐れ春の風邪

吉井 聖倅

早春の海へ舳ひの解かれけり

村野 離翔

春の風邪か弱き素振りする女

湯川 晶月

余韻会（俳句同好会）

令和二年四月八日分

投句会

山麓に光のかけら木の芽吹く

奥田 好子

人目さけ夫婦二人の花見かな

畑崎 青峯

パンジーの開いたままの彩の群れ

角田 伯堂

一鉢のパンジーが呼ぶ店の隅

則岡 弘士

点滴のしづく静かに春惜む

壺井 仙岳

話題みなコロナウィルス春惜む

松谷 泰山

春惜む一雨毎の華の舞

神田 淡京

春惜む朝な夕なの散歩人

高橋 恵信

芽柳の靡きてそこに風の道

村野 離翔

今日の日を笑顔で別れ春惜む

飯田 美音

旧姓に戻りし知らせ木の芽風

湯川 晶月

余韻会（俳句同好会）

令和二年五月七日分

投句会

校庭に薫風走る登校日

奥田 好子

晴れ渡る生田の森や青嵐

角田 伯堂

校庭に学生もなく春開ける

則岡 弘士

薫風や光輝くセーリング

松谷 泰山

薫風や鳥に負けじと空を舞ふ

神田 淡京

苗売の声に活着疑はず

村野 離翔

ぐずる児を空に抱き上げ薫風に

湯川 晶月

余韻会（俳句同好会）

令和二年六月四日分

投句会

入梅の海一刷の濁り色

奥田 好子

風騒ぎ蝶が飛び入るサンルーム

角田 伯堂

黒南風や明石海峡吹き上る

則岡 弘士

更衣白に染まりし女学校

塚本 宗哲

短夜の夢の続きが気にかかり

神田 淡京

葉桜や生命力の漲れる

村野 離翔

風薫る独りオペラの夢舞台

飯田 美音

砂利を踏む靴音濁り梅雨近し

湯川 晶月



絵と文 小倉宗夫

「自粛の夏」

老人は重症化するから、不要不急の外出は禁止とか。

云われて在宅、アトリエに閉じこもり。せめて窓から入る初夏の日差しが色鮮やかな野菜に照り返し…と描き始めた静物画でしたが…。外から入ってきたのは毎日毎日、うっとうしいコロナウイルスの情報ばかり。

仕方無いので、野菜を包んだ新聞を拡げて、それをその儘、描きました。

CONTENTS

3 役就任挨拶	1
前年度 3 役退任挨拶	7
4 大奉仕委員長就任挨拶	11
特集：新型コロナ感染症	17
新会員自己紹介	29
余韻会	31

編集後記

前年度はコロナ禍により、凡そ3ヶ月間例会をはじめロータリー活動が休止されたので、前年度会報第3号の発行は中止となった。

従って、今年度の会報第1号は、合併号として、発行することになった。関係者に急な原稿依頼をしてお迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。

第1号はコロナ関連の記事がたくさんあります。

広報委員長 吉田 博